

会員のば

ブラックアウトから 一年を経過して

釧路市医師会
うえはら耳鼻咽喉科クリニック

植原 元晴

胆振東部地震とそれに引き続いて発生したブラックアウトから一年が経ちました。電気というインフラが如何に大事であり日常生活に不可欠なものであるかが改めて認識された出来事でした。このブラックアウト以降、再発防止に向けて本州との送電線の増強やガス発電所の増設、洋上風力発電所の新設などを行っておりますが、必ずしも万全の対策とは言えない状態です。東日本大震災以降原子力発電の停止などで火力発電所への依存度が増し自然エネルギーの活用が叫ばれていましたが、最近では電力の安定供給のためにこれ以上太陽光発電の比率を上げないよう電力会社による買い取り拒否が起きてきており、そのような中で太陽光発電の固定価格買い取り制度が11月に廃止となり売電価格が大幅に下落するようです。このクリーンで災害などでも影響の少ないエネルギーの活用が減っていくのでは大変残念ですが、太陽光発電の最大の問題は電力消費の少ない日中に発電し電力を消費する夜間には発電しないことでしょう。日中に発電した電力を蓄電池などにためて夜間に使うことでこの問題は解決できますが、その蓄電池の価格がまだ非常に高いことで、一般家庭用の半日から1日分の電力を貯める蓄電池で100万円以上、高いものでは普通車一台分程にもなります。11月に固定買い取り制度が終了した後は電力会社に電気を売るよりも蓄電池に貯めて自分で消費する方がメリットは大きいようですので蓄電池を購入する家庭が増えるかもしれません。

私は東日本大震災後に蓄電池用として日産自動車のリーフを購入しました。以前釧路市医師会で日産自動車の方に講演していただいたことがあります。リーフは自動車としても二酸化炭素を排出しない環境に優しい車として評価されておりますが、ニチコンのLeaf to Homeを設置するとリチウム電池に貯めた電気を家に給電することもできます。昨年のブラックアウトの時はうっかり充電を忘れていて満充電の半分くらいの電力しかなかったため病院と

自宅に電気を継続して給電することはできませんでしたが、数時間に限定して診療も行い、夜は自宅の照明もつけることができました。リーフの電力容量が一番古いモデルで一般家庭の2日分の消費電力に当る24kwh、最新のモデルでは62kwhにまでアップし、私は先日新しいモデルを購入し、古いモデルと合わせて2台で1週間は電力を自給できる計算になり、これでブラックアウト対策は万全と考えております。固定用の蓄電池では病院と自宅の両方に設置しなくてはなりませんが、自動車ですので移動してどちらにでも給電が可能のため、費用の面でも有利です。自宅を建てた際に太陽光発電パネルを設置していますが、固定買い取り制度の廃止に備えて太陽光発電した電力をリーフに蓄電できるように変電設備を設置する予定で、今後は電力の自給自足が可能です。電力会社も電力消費の安定化のために深夜の電気料金を下げており、深夜、リーフに十分な電気を貯めておき日中に給電すると電気料金の節約にもなります。このシステムがもう少し安価になり一般家庭に普及すれば原発など無くても十分にエネルギーの安定供給は可能ではないかと考えています。国や電力会社や自治体は、このような小規模な発電事業に対して積極的な支援が必要でないかと思います。

またリーフは電気自動車としてもカタログ上は一般道でフル充電していれば458km走行可能で、高速道路を無充電で釧路から札幌に行くこともできます。最近では高速道路のパーキングエリアに急速充電設備が増えてきており、途中で休憩しながら充電できます。月々3,000円弱の会費で全国のさまざまな充電スポットで無料で充電できるため、交通費は高速道路の通行料金だけと大変お得です。また電気自動車の加速性能はガソリン車とは比べ物にならない程高く、アクセルを踏んだ瞬間あっという間に高速走行に移行できるレスポンスには驚きます。エンジン音はないので静寂性も高く、車としてもポテンシャルの非常に高いリーフの面白さも実感しておりますが、難点は同じクラスのハイブリッドなどと比べて価格がやや高いことでしょうか。

何かリーフの宣伝みたいになってしまいました。日産自動車とは利益相反は一切ありません(COI開示)。今後は日産自動車のみならず、他の自動車メーカーも同様に充電にもなるような電気自動車を世に送り出して価格競争が起こり、安価になることを願っております。